節電アクション

HP

この夏の「節電」にご協力ください。

みんなで節電アクション!!

夏の節電にご協力ください

この夏は、安定して電力を供給できる見通しですが、発電所のトラブルなど、不測の事態によっては、電力需給がひっ迫する可能性があります。

関西圏内では、昨年並みの節電の実施（平成22年夏比、9％削減目安）が要請されています。

無理なくできる範囲で節電にご協力ください。

■節電期間
7月1日～9月30日の平日
（8月13日～15日を除く）

■節電時間
午前9時～午後8時

	節電メニュー（例）	節電効果
エアコン	・冷房の設定を 26 ～ 28℃にする。	10%
	・無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機を使用する。	50%
冷蔵庫	・設定温度を「強」から「中」に変え、扉を開ける時間を減らす。	2％
照明	・日中は、不要な照明を消す。	5％
テレビ	・省エネモードに設定する。画面の輝度を下げ、必要なとき以外は消す。	2％

『夏休みエコ絵日記』作品を募集します

HP

～この夏も、無理なく節電・省エネに取り組みましょう～

夏休みに、家族で取り組んだエコアイデアを絵日記にしてみませんか？

例えば、「電気をこまめに消したよ！」「緑のカーテンを育てたよ！」など、みんなに知らせたいこと、自慢したいこと、工夫したこと、どんなことでもかまいません。

素敵な絵と日記にして、応募しましょう！

■募集対象 / 市内の小学1～6年生
■募集期間 / 7月22日（月）～8月30日（金）
■応募方法 / 専用の応募用紙（B4）をご使用ください。絵の具や色鉛筆など、何を使ってもかまいません。応募は1人1作品まで。
■応募先 / 環境政策課へ郵送または持参してください。
■賞品 / 応募者全員に参加賞。また、応募者の中から審査のうえ、入選作品10点を選考します。（副賞 3,000円の図書カード）
■応募先 / 環境政策課
〒669 - 3692　氷上町成松字甲賀1番地

問 環境政策課（氷上庁舎内）☎82 - 1290

市長からのメッセージ

[こちら市長執務室]

丹波市長　辻　重五郎

5月27日（月）に、下水道事業運営審議会（田村庄一会長）から、「下水道中期ビジョン」について答申されました

「下水道中期ビジョン」を策定しました

下水道事業の持続可能な運営を図るために、今後10年間の施設の整備や統廃合などの下水道事業計画についてまとめた「下水道中期ビジョン」を策定しました。

今後も、この計画に基づき、みなさんの暮らしに欠かせない下水道事業の適正な運営に努めてまいります。

[テーマ] 自然と共生 －ウィーンの森に学ぶ－

去る7月4日(木)から、私が理事長を務めております兵庫丹波の森協会主催のもと、丹波・篠山両市から総勢26人が参加し、ウィーン市13区との「友好提携20周年記念」行事出席のために、オーストリアを訪問しました。

5日間の旅とはいえ、飛行機で2日間を要し、実質の滞在期間は2日間というハードスケジュールでしたが、無事、親善交流の目的を果たすことができました。

1日目は、シェーンブルン宮殿（ユネスコ世界遺産）を見学しました。皇帝の居城として広大な帝国の権力の中枢であり、王朝時代、ここを住まいとした統治者の極めて洗練された文化的嗜好とともに、当時の生活のようすもうかがうことができました。

午後には、区役所の区長室を訪ね、まちの代表との記念行事が開催されました。24年間の長きにわたり区長を務めてこられたハインツ・ゲルストバッハ氏からは、21回目の訪問団を迎えた喜びあふれる歓迎の言葉をいただきました。また、天皇皇后両陛下がウィーンを訪問された際の写真なども拝見することができました。

今回で、延べ793人が丹波・篠山両市からウィーンを訪問したことになります。これを記念に、日本の国蝶「オオムラサキ」をウィーンの森（動物園）に放蝶する計画のもと、まず、その餌となる「エノキ」の記念植樹を行いました。今後は、この「オオムラサキ」を交流の柱として、ウィーン市13区のみなさんとの親善が深まることを期待しています。

夕方からは、100人を超す現地の方たちとの交流会が催されました。「シューベルティアーデたんば」の音楽監督である畑儀文さんによる歌とピアノ演奏や地元の音楽家によるコンサートを鑑賞し、シューベルトの生まれ育ったこの地に思いをはせることができました。

2日目は、ウィーンの森を視察。森全体が動物園で、欧州でも最大とのことでした。たくさんの動物が住み、森に生える草木は、人の手が一切加えられておらず、動物園の道のほとんどは土のまま。「自然を克服する、征服することなど考えない」。そんな価値観が浸透しているまちだと実感することができました。このウィーンの森は、地球規模の環境保全に大きな夢と希望を与えるもので、丹波の森とも深い結び付きがあると思うと、私たちも「森と学ぶ、森に学ぶ」環境にある幸せを感じずにはいられませんでした。

オーストリアは、芸術の国と称され、ベートーベン、モーツァルト、シューベルトなどの音楽家やシェーンブルン宮殿の壁画に見られる多くの画家たちが誕生した国です。この森とともに育った人々の生き方、考え方がつくり上げたものであろうと感じることができました。

今後は、「オオムラサキ」をウィーン市13区との交流の柱にすること、また、丹波の森もウィーンの森にならい、さらに、自然との共生を追求すべきではないでしょうか。

最後に、ともに旅をした25人の明るく元気な仲間たちに感謝申し上げ、市民のみなさんへのご報告とさせていただきます。